

ス
リ
ッ
プ

カブリッヰキ

隔月連載

有賀美雪の

楽屋育ちのひとりごと 18

惑わされずに、
自分の目を信じようよ。



プレイマガジン読者の皆さま、毎度お騒がせしております。私、祭りとステージが三度の飯と同じくらい大好きなストリップパー有賀美雪でございます。

早いもので、今年ももう残り二カ月。私自身、今年は人生の中でも勉強になることがたくさんありました。ところで、ストリップの世界に限らず、一般社会の中でも私たちが生きていく中で、見過ごしていくことができないなあと思えてならないのが、マスコミやメディア関係ですよねえ。

なんだか知らないうちにどんどん肥大化して、ありもしない話がいつの間にか独り歩きして、それが本当に現実のように錯覚してしまうことってないでしょうか。これって考えてみると、すごく恐ろしいことですよね。

そんなものの代表的な例が最近の「コギャル」「マゴギャル」現象ではないでしょうか。「たまごっち」にしたってそうですよ。話題が欲しいばかりに「これが今どきの主流」なんて勝手に決めつけちゃう。それを受け入れる立場の人間

にしてみれば「みんながそうだったら、自分もそうしよう」って思うのは当然じゃないでしょうか。大人だって子供だって、誰だって仲間外れになんかされたくないもの。

「援助交際」「ストーカー」、これもマスコミが作り上げた言葉ですよ。ストーカーなんて、最近新聞やテレビをにぎわせているみたいだけど、こんなものまでが流行になっってしまうなんて絶対におかしいよ。ワイドショーとかで煽っているうちに、バカな変態野郎がその気になってるだけじゃないの。

今のマスコミって、本当に伝えなければならぬことには口を閉ざし、その一方では「コギャル予備軍」「援助交際予備軍」「ストーカー予備軍」を大量生産しているだけみたい。

マスコミといえ、私たちがだって無縁じゃない。この間、私の踊り子仲間の一人が、ある雑誌のインタビューを受けただけ、言ってもいい

ことを書かれてマジに憤慨していた。ほかのお姐さんたちにも、迷惑をかけてしまうような内容だったんだもの。

私だってマスコミの人間に不愉快な思いをさせられたことはたくさんある。もう、そんな連中を相手にするのは真つ平ごめんです。彼女にしたって、私にしたって、ストリップを続けていくうえで、マインナスにしかならないことを、どれだけ多くの人に伝えても、らったところで、迷惑なだけだもの。私なんか、親の七光りとか、二世タレントとか、サラブレッドとか書かれたりするけど、もううんざりよ。私は馬か！

このお仕事、マスコミによって自分の立場が左右されることは大いにあるけど、やっぱり惑わされてはいけないよ。みんな自分の目で見たものを信じていこうよ。私も舞台で、よいところ、悪いところを含めて、ありのままの自分を正直に伝えたい。でっちゃんあげ。だけはよくないよね。